

## 24 加藤 果林 さん Karin Kato

企

北勢

ミサワリフォーム関西中部 株式会社（四日市市）  
リーダー

業種  
建築一式工事

事業所

ミサワリフォーム関西中部 株式会社

三重県四日市市赤堀 2 丁目 6-19

<http://reform.misawa.co.jp/kansai-chubu>

社員数：175 名



### Profile

- ・ミサワホームグループで勤続 23 年
- ・育休復帰後も新築営業部署で活躍
- ・2017 年に第 2 子を妊娠・出産
- ・同年より『育休カフェ』を開催中

### 講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立  育ボス
- 人材育成  障がい者雇用  起業
- NPO 設立  多文化共生
- 地域資源活用  防災
- その他（キャリアアップ・キャリアデザイン）

### 講演実績

- ・2017 年 育休ママのつらい「ママのこれからの働き方」（自身が主催者）

## 「私の使命」

### 仕事と育児の両立を模索し、勤続 23 年

加藤さんがミサワホームグループに入社したのは 1996 年。「当時はまだ“女性社員は寿退社”という風潮でしたが、私は仕事を続けたいと思っていました」。

加藤さんは 2002 年に第 1 子を出産。この時、産休・育休取得者の社内第 1 号になりました。復帰後は両親・託児所・保育園と頼れるものをフル活用し、住宅営業マンとして土日勤務。“小 1 の壁”に当たった 2008 年には、日曜定休の法人営業部に異動。

その後、ママ友に助けられながら夜間学校に通い、二級建築士資格を取得。勤続 23 年を迎えた現在は、住宅のリフレッシュから、耐震・エコ・ユニバーサルデザイン改装まで、住宅リフォーム全般を手がける部署で活躍しています。

### 育休ママの味方！『育休カフェ』を発案

住宅・商用施設の新築営業や、リフォームサロンの店長など、さまざまな仕事を経験した加藤さんに転機が訪れたのは 42 歳の時。「第 2 子を妊娠・出産しました。昔よりずっと充実した社内制度を、この時は利用させてもらいました」。

育休中に加藤さんが注目したのは、自身の経験を生かした社会貢献活動。乳幼児ママの社会参画に取り組む鈴鹿市の NPO 法人『マザーズライフサポーター』の活動にボランティアとして参加し、「会社勤めを続けたいママの力になれるはず」と気づいたといいます。

2017 年 10 月に育休ママが集まる座談会『育休カフェ』を開催し手応えを感じた加藤さんは、定期開催を決定。毎月第 4 木曜日に『育休カフェ』を開いています。

## 私流リーダーシップ

### 女性みんなに伝えたい「会社を続けよう」

『育休カフェ』は座談会スタイルで、復職を控えた来訪者の疑問や悩みに応えられるよう、加藤さんは『育休後アドバイザー』の資格も取得しました。『育休カフェ』の話題は主に、鈴鹿市の“保活”の情報交換、復職前の面談で上司に伝えるべきポイントなど。

「働く女性が珍しくなくなった今でも『部署内に育休取得者が他にいない』という声が多く聞かれます。これには私も驚きました」。上の子が高校生になった加藤さんが、積極的に呼びかけていることが一つあります。「会社をやめずに子育てしよう。子どもの夢を応援するにも、お金は必要です」。自身の経験と最新の情報を元に、仕事も子育ても自分らしく続ける方法を、加藤さんはママたちと一緒に考えます。

### 上司側の視点もまじえ、働き方を考える

課長や店長も経験した加藤さんは、管理者の苦悩も参加者に伝えるようにしています。そして同じママとして“マミートラック”の危険を説きます。「自分の正当性ばかり主張していると、いつか面白い仕事が回って来なくなるよ」。そうならないための方法を一緒に考えます。

鈴鹿市で始まった『育休カフェ』は、他市に広がる兆しもあるとか。「『チャレンジャーズ・アワード 2018』で私の取組を知った勤務先が、興味を持ってくれるように。自社のショールームを使うなど、新たな企画を検討中です」。『育休カフェ』で会社員ママの心が楽になることを願い「できることは何でもお手伝いします」。加藤さんは『育休カフェ』の開催を広く呼びかけます。

（取材時：2018 年 11 月）

### こんな講演・相談に対応できます

- 女性活躍の意識啓発
- キャリアデザイン（出産・育児期）
- 育児中の女性社員のホンネ実例
- 仕事と育児を両立させるポイント

### お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：<http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm>

WEBは  
ここから

